

舞鶴地方史研究会の活動

舞鶴地方史研究会
小室 智子

舞鶴地方史研究会は1964年（昭和39）に結成された研究会で現在会員50人である。毎月1回例会を持って研究発表の場としており、分科会として田辺藩裁判資料研究会・中世史研究会・大浦歴史研究会が活動している。また毎年夏と秋に元千葉大学文学部史学科菅原憲二教授の指導のもと、城下町竹屋町の古文書調査を実施している。

これらの活動に加えて、2017年からは京都府立大学のACTRに参加することになった。2017年度は藤本仁文文学部歴史学科准教授のもとで「海とともに生きる舞鶴～丹後の海再考」と題して舞鶴の歴史を海から見直すシンポジウムを開催した。これは2016年宮津市で実施されたシンポジウム「海からみる丹後の歴史・文化」を受けて開催された。このシンポジウムでは、丹後は大陸から都への南北の道と日本海を東西に交流する道の交差点にあたることと、経ヶ岬の東西で文化がかわることが確認された。経ヶ岬の西は日本海に直接面しており、東は若狭湾である。また、丹後の中でも舞鶴は少し違うと言われるが実際何がちがうのか？若狭の影響なのか？この疑問に明確に答えられる人はいない。まずは舞鶴の歴史を海から見直してみようということになった。そして実現したのが「海とともに生きる舞鶴～丹後の海再考」である。縄文丸木舟が出土した古代から引揚記念資料がユネスコ世界記憶遺産に登録された現代までを7人がリレートークした。舞鶴市は行政区を加佐地区・西地区・東地区・大浦地区の4地域に分けており、文化的にも加佐地区は縄文や弥生の桑飼下遺跡や由良川舟運、西地区は近世城下町、東地区は近代鎮守府、大浦地区は縄文丸木舟を代表とする浦入遺跡や冠島など若狭湾文化を伝える地とされている。今回のシンポジウムでは、実はそんな単純なものではなく、明治時代の舞鶴湾には帆をかかげた和船と鋼鉄の軍艦が浮かんでいたように、もっと面も時間



写真1 例会千歳ウォークの様子、例会は研究発表のほかフィールドワークや古文書講座も取り入れている。

軸も絡み合いジグザグと進んできている実態が明らかになってきた。個人的には舞鶴の歴史はどの地域もどの年代も面白いと感じてきたが、このシンポジウムでそれがからみあうことでさらに疑問がわき調べたくなるのだと実感した。

また、東昇准教授のもとで多門院文書調査や余部上井上奥本家文書調査を実施し、11月には多門院公民館で「多門院調査報告会」を実施した。余部上井上奥本家文書調査は舞鶴市郷土資料館（舞鶴ふるさと発見館）で毎月曜日に会員が集まり、目録を採った。井上奥本家は余部上の庄屋や戸長を務めた家で江戸中期から現代に至る古文書がある。市内の他の庄屋文書でも1800年代からのものが多く、井上家のように古いものが良い状態で残っているのは珍しい事例である。この文書を後世に伝えていこうとする井上家の気概を感じることができる。

この年は、藩校サミット実行委員会よりイベントとして牧野家に関わる連続講座を共同開催してほしい旨の申し入れがあり、全6回の内、2回を当会会員が、1回を府立大学東昇准教授が担当した。

2018年度は、2017年に実施したシンポジウム「海とともに生きる舞鶴～丹後の海再考」の内容をさらに深めるためにシンポジウムの発表者から4人が例会で発表した。中世丹後の海賊が舞鶴湾を拠点とした可能性や由良の北前活動を行う船頭が北海道だけでなく朝鮮にまで渡っていたことを知り、さらに海からの歴史を知りたくなった。本当に舞鶴は丹後の他の地域とちがいがいいのか？お隣の若狭はどうなのか？次は丹後と若狭のシンポジウム開催が期待される。

また、引き続き実施した余部上井上奥本家文書調査は当会会員による目録採りと、東昇准教授が学生達を連れて一泊二日の授業を実施された甲斐あって約3500点の目録が完成し、今年度の文化遺産叢書で紹介されることになった。文書調査に協力した舞鶴市郷土資料館では余部下の庄屋布川家文書をはじめ中舞鶴地区の文書を所蔵しており、今回の文書調査で余部上・下両庄屋の文書が揃ったことになる。これを機に「鎮守府と中舞鶴」と題する展示を赤れんが3号棟（智恵蔵）で出張展示した。

今年は舞鶴山城研究会や舞鶴高専とも例会を共同開催し、藩校サミットの舞鶴開催もあり、他の団体との交流が進んだ。当会を介して様々な団体や個人が交流し、研究が広がっている。舞鶴は江戸時代の村が約120か村ある。同じ東地域でも市街地になった浜村と祖母谷に位置し若狭国境に近い多門院とでは大きくその歩みが異なる。それぞれの地域には歴史に関心を持つ人や古文書を保管する人がいる。これからも地道な資料調査と広範囲な交流によって舞鶴の歴史を明らかにしていきたいと考えている。



写真2 「海とともに生きる舞鶴～丹後の海再考」の拡大バージョンの例会。熱心な受講者が多く、海から見た歴史への関心の高さを感じた。

表紙の解説

	1	2	3
5		4	
(裏)		(表)	

- 1 「舞鶴の歴史アラカルト」パンフレット
- 2 文書蔵出し調査風景 東昇撮影
- 3 舞鶴地方史研究会との共同調査 東昇撮影
- 4 舞鶴クレインブリッジ 松岡秀雄氏撮影
- 5 東舞鶴高校での授業風景 廣瀬邦彦氏撮影

京都府立大学文化遺産叢書（2008～）

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 2 近世伊予越智島地域における流動する人・物・情報
—御用日記・諸願控の総合的研究—
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図—地域文化遺産の情報化—
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽市域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—
- 7 熊野の信仰と景観—宗教遺産学の試み—
- 8 石見銀山域の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 八幡・南山城地域の寺院資料と信仰—京都府歴史資料調査—
- 11 舞鶴の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 13 古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究
- 14 舞鶴・京丹後地域の文化遺産
- 15 沖縄の宗教・葬送儀礼・戦没者慰霊



京都府立大学文化遺産叢書 第16集
舞鶴の地域連携と世代間交流
井上奥本家文書調査報告

編集 東 昇
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5
発行日 2019年3月30日
印刷